

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470201290		
法人名	有限会社 コーブンシャ		
事業所名	グループホーム ほのぼの平尾の家		
所在地	三重県四日市市平尾町78-12		
自己評価作成日	平成26年10月8日	評価結果市町提出日	平成27年1月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/24/index.php?action_kouhvu_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=2470201290-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26年 11月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年になり新しい道路が開通し、交通の便が良くなりました。建物の回りも少し変化はありますが、すぐ前には公園・田んぼ等がたくさんあり、四季の移り変わりを目で見て感じられる場所です。月1回の地区開催のふるさと広場・夏祭り・長寿会等の行事にも参加させて頂き、地域の方々・子供たちとのふれあいもあり、交流を深める場となっています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所のすぐ前には、地元の高齢者がグランドゴルフをしたり子供たちが遊ぶ公園があり、お天気の良い日にはそこでの散歩を楽しんでいる。事業所の西には鈴鹿の山々や田園風景が広がり自然環境に恵まれているが、近くに大きな道路が開通して交通の便がとても良くなった。また、自治会活動の一環として毎月ふるさと広場と称した催しがあり、利用者は交替で参加することを楽しみにしている。地元の農家から差し入れも多く、利用者と職員でメニューを考え四季折々のお料理を楽しんでいる。運営推進委員会に必ず近隣の住民が参加するなど地元根ざした事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	散歩時の地域の方々との会話や、ふるさと広場への参加により、一緒に・楽しく・地域とのつながりを大切にを心掛けています。	管理者、職員が地域とのつながりを大切にしながら、家庭的な雰囲気の中で利用者の思いを大切にし、一緒に・楽しくという理念を共有して実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月1回の地区開催のふるさと広場、長寿会等の行事に参加させて頂き、同年代の方・子供たちと触れ合い事ができ、利用者様も喜んでみえます。	毎月、地元住民対象に催されるふるさと広場では、ボランティアが歌、体操、手品などを計画し楽しみを作ってくれる。そこに毎月4~5人が交替で参加し、地元の住民と顔なじみになっている。夏祭り、長寿会には全員で参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いろいろな場所で地域の方と会う機会があり、その都度、相談を受ければ対応できるようにしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、定期開催しています。家族様・地域の方・行政機関の方々毎回楽しく、有意義な情報交換の場として活用させて頂いています。	2か月毎に幅広い分野から参加があり、情報交換やその時々話題に活発な意見が交わされている。毎回近隣住民が複数参加していて、地元とのかかわりの深さを感じられる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で2か月に1度、介護高齢職員・包括支援センター職員にお会いする為、近況報告・情報交換を活用させて頂いています。今年は県地区の施設の顔合わせがあり、その際もいろいろ相談させて頂きました。	運営推進会議を市の職員、包括支援センターの職員との情報交換、相談の場として有効に活用している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員全員で話しあい理解し、取り組みをしています。	身体拘束の弊害については職員全員で話し合い、確認し合っているが、一部夜間の転倒の心配のある利用者については家族の了解のもとで柵を使用している。また、新しい入居者で帰宅願望の強い利用者があるため、玄関の施錠は欠かせない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても話し合ったりして、職員全員理解しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、学ぶ機会を検討したいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学にみえた時にもある程度説明させていただきますが、入所が決まった時点で再度詳しく、納得がいくまで説明させて頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱も設置してありますが、利用される方はみえず、面会や薬を届けてもらった時等に直接話をさせてもらっています。	2週間に一度かかりつけ医からの薬を届けてもらう時に話をしたり、変わったことがあれば電話で報告をして意見を聞いている。家族からの要望についてはミーティング時に職員全員に伝え、必要があれば上司に報告して運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティング、毎日の申し送り等で話し合ったことを管理者から上司に伝える様になっています。	日々の介助で不都合なことがあったり、新しいアイデアなどがあれば毎日の申し送りで伝えあい、全員が共有し実践している。管理者が上司に報告、相談をして職員の意見を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員からの要望などは管理者から上司又は代表者に伝え、改善をお願いするのですが、難しい状況である。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等にはなるべく参加できるように勤務体制を考えている。全職員に参加してほしい為、交代にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人外研修の活用の継続。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に本人・家族様から不安や希望等の話を聞かせてもらい、信頼関係がもてる様に心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所後の様子等を家族様に報告させてもらい、その都度要望等も取り入れていく様にし、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学して頂いてから入所が決まるまで、何度かお話をさせてもらったりする中で見極め、安心して入所して頂ける様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの個性を活かしながら、家族のような関係を築いていけたらと思っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の協力があり成り立っているということを念頭に置き、取り組んでいます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様・知人などの面会・外出等は要望通りに支援させてもらっています。 月1回の平尾町のふるさと広場の参加もなじみの場となっています。	家族の意向で自宅への帰宅などしてもらっているが、外泊をする利用者はほとんどいない。お正月に親類縁者が集まって、利用者の居室でおせちなどを持ち込みで祝うこともある。最近では月1回のふるさと広場が馴染みの場所になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がうまく関わりあえる様に間に職員が入ったり、席替えをしたりと誰とでも仲良く出来る様、支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様からの連絡等あれば話を聞いたり、支援させて頂きたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段から日常生活の中での世間話や会話の中で本人の思っている事・感じている事をくみ取るように心がけています。	日々の生活の中で利用者との会話やしぐさなどから思いを汲み取るようにしているが、意向も時と共に変わってくるので、申し送りノートを活用し職員間で共有し、利用者の思いを大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の家族様からの情報や、本人からの話等も聞いたりし、サービス利用に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタル・入浴時の身体チェック。 出来ることを探したりして安心して過ごして頂ける様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のミーティング時、一人ひとりのカンファレンスを行い、見直しがあれば変更する。 家族様の意見も取り入れ作成するようにしている。	毎月行う職員のミーティング時に、全員の利用者のカンファレンスを行い、同時にモニタリングをしている。プランの見直しは3ヶ月毎に行い、利用者の状況に合わせたケアをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとり、1日の様子がわかる様に記録し、いつでも確認できるようにしている。 日々の申し送り時にもケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な病気の時、家族様対応が難しい場合は受診したり、日用品購入の代行等、援助させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の皆様の支援を受け色々な行事に参加させて頂き、利用者様・職員共楽させて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全員、月2回の往診、年1回の健康診断を受けている。往診以外にも急変時は来て下さる場合もあります。受診時には体の様子・バイタルを受診表に記入し報告しています。24時間体制で連携をとっています。	利用者全員が地域の協力医にかかっている。月2回の往診時に、毎日のバイタル等の記録を報告している。協力医とは24時間連絡が取れ、緊急時には協力医の指示のもとに、医療機関に搬送することになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度、看護師が出勤している為、個々の様子を伝えている。 緊急時はその都度連絡を取ったり、直接来て対応してもらったりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族様や病院のケースワーカーと連絡を取ったり、情報交換に努めている。 病院に出向き相談したりもする。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に当事業所では対応できる場合・出来ない場合を説明し、入所時に特養等の申込みも同時にして頂く様お話をさせて頂いています。 この施設で無理になった場合でも、次の所が見つかるまではお世話させて頂いています。	事業所の建物の構造などから、車いすが必要になった時点で退所して次の受け入れ場所に移ってもらっている。看取りはできないことを入所時に確認し、特養への申し込みを同時に勧めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員の看護師に応急処置の仕方、急変事の対応の仕方等教えてもらったりして職員全員が身に付ける様にしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	4月に消防署員立ち合いで避難訓練、9月25日には三重県一斉防災訓練で午後2時に地震発生の設定で訓練をしています。 食料の備蓄も1週間分確保してあります。	火災と地震を想定した避難訓練を年に2回行っている。事業所が比較的自然災害を受ける可能性の低い立地条件であるため、多少の安心感はあるが、備蓄にも努め災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた対応や声掛けを心掛け、気を付ける様にしています。	日常のあらゆる場面での声掛けの際、言葉遣いや声のトーンに気をつけ、利用者の誇りやプライバシーを傷つけないよう支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者からの希望等は出来るだけ応じられるよう、家族様に相談したりして対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各個人のその日のペースに合わせて対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各個人の好みに合わせて支援しています。散髪はここに来てして頂いていますが、行きつけの美容院があれば利用してもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬のもの、月々の行事等に合わせたメニューを考えています。利用者の食べたい物を聞いたりして、お昼は職員も一緒に楽しく話をしながら食べる様にしています。	地元の農家からもらう旬の野菜を使ってメニューを考え、職員と利用者が一緒に楽しく食べている。食材の買い出し、下ごしらえ、食事の後片付け等は利用者も一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせてご飯の硬さ・量・副食の刻みなど考えて食べて頂いています。水分補給なども気を付けています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・義歯洗浄 夜間のみ義歯は洗浄剤に浸けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員トイレでの排泄、夜間はポータブルトイレの使用が1名。 いつもさっぱりして頂きたいので、時間をみて声掛け・見守りで支援しています。	体調の悪化で完全介助の2名を除いて、ほとんどの利用者が、布パンツ・紙パンツを利用しトイレで排泄が来ている。一人ひとりの体調・排泄等を記録する日誌を使い、声掛け・トイレ誘導をして気持ちよく生活できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通表を記入し、薬などの服用で調整するようにしています。 食べ物・水分などにも気を付けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2組に分け1日おきに入浴して頂いています。 時間帯は決めてありますが、その日に合わせ臨機応変に対応しています。	日曜日を除き、一日おきに入浴支援をしている。浴室は広く、ゆず湯など入浴剤等を使い利用者はゆったりと入浴を楽しんでいる。入浴を拒否する利用者はなく、全員の利用者が入浴を楽しみにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節により室温を調整し、ゆっくり休んで頂ける様に心掛けています。 夜間眠れない方には会話をもったりして安心して頂ける様支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	安全に服薬して頂ける様、日にち・名前の記入、側に居て見守りしたり口の中に入れてあげたりしている。 その日の薬は職員2人でチェックを行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る事を提供したり、趣味を活かしたり、楽しく過ごして頂ける様に工夫しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は毎日その人の合わせた距離の散歩・買い物同行、季節に合わせた行事等、外出支援を行っている。 毎月1回の地域のふるさと広場にも交代で外出している。	日常的には、利用者は事業所の前にある公園周辺を歩いて散歩したり、食品の買い出しに同行している。季節の行事として花見、回転ずしでの外食も楽しんでいる。また、月に1度のふるさと広場に交替で参加し、地元の住民との交流を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は全員、金庫で預かり、個人では持っていない。 必要があればそこから出して購入しています。 一緒に買い物に行った場合は、自分で出してもらったりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話・手紙の支援はさせてもらっています。 はがき・切手などは預り金から買わせてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、出来る方には、掃除のお手伝いをして頂き、きれいな室内で過ごして頂ける様にしている。 季節の花を飾ったりして季節感をとり入れる様にしている。	食堂兼リビングは広々としていて日当たりがよく、ゆったりとしたソファが置いてあり、利用者は一日のほとんどをそこで過ごしている。 建物は2階建てであるため、階段は利用者に合わせて一段一段の高さを改修して、手すりが万全に設備されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各個人の席が決めてありますが、様子を見て席替えをしたりして誰とでも楽しく話が出来る様に考えています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使用していた物等を置いたり、写真等を飾ったりしてもらいます。 家族様が見えた時もゆっくりと話が出来る様配慮しています。	民家を改造した建物であるが、どの部屋も広々としている。利用者に合わせたベッド、クローゼット、押し入れが設置され部屋は余分な家具が置かれていない。掃除が行き届いておりすっきりしている。	居室がすっきりと片付いていることは良いことであるが、利用者にとっては我が家でありくつろげる空間でなくてはならない。一人ひとりの嗜好に留意して居心地の良い空間になるよう工夫されたい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に楽しく生活して頂ける様に不備があれば直ぐに修理・改善をするようにしている。トイレが判らず迷ったりされる方がみえるため、貼り紙をしたりしてわかる様にしています。		